2026年11月12日
日本銀行高知支店

高知県金融経済概況

【概　論】

高知県の景気は、緩やかに持ち直している。

前回の概況公表時（10月中旬）以降の県内景気をみると、個人消費は堅調に推移している。観光は回復している。公共投資は横ばい圏内で推移している。設備投資は持ち直しの動きが続いている。住宅投資は弱めの動きとなっている。この間、製造業の生産は業種によるバラツキはあるものの、全体では緩やかに持ち直している。そうしたもと、労働需給は引き締まった状態となっている。雇用者所得（名目ベース）は着実に増加している。

先行きについては、緩やかに持ち直していくとみられる。ただし、①コスト上昇と価格転嫁の動向、②人手不足の影響と賃金の動向、③中東情勢・海外経済の動向の影響等について、注視していく必要がある。

【各　論】

１．需要項目別の動向

公共投資は、横ばい圏内で推移している。

発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、月々の振れを均せば横ばい圏内の動きとなっている。

設備投資は、持ち直しの動きが続いている。

2026年度の設備投資額（26/9月短観）は、非製造業を中心に前年度を上回る計画となっている（全産業前年度比：＋16.9％）。

この間、企業からみた生産設備や営業用設備の過不足感（26/9月短観）は、過不足なしとなっている（生産・営業用設備判断D.I.＜「過剰」－「不足」＞：0）。

個人消費は、堅調に推移している。

大型小売店[1]の販売動向は、堅調に推移している。コンビニエンスストアの販売動向は、幾分弱めの動きがみられている。家電量販店の販売動向は、回復している。乗用車新車登録台数は、横ばい圏内で推移している。旅行取扱高は、基調としては持ち直している。

観光は、回復している。

26/9月の県内の主要観光施設への入込客数(26/9月前年比:＋13.7%＜速報値＞)と主要旅館・ホテルの宿泊客数（同：＋7.4%）は、ともに前年を上回った。

住宅投資は、弱めの動きとなっている。

２．生産

製造業の生産は、業種によるバラツキはあるものの、全体では緩やかに持ち直している。

機械、食料品、パルプ・紙・紙加工品、鉄鋼は、緩やかに持ち直している。窯業・土石製品は、横ばい圏内で推移している。

３．雇用・所得

労働需給は、引き締まった状態となっている。

企業からみた雇用人員の過不足感（26/9月短観）は、不足超となっている（雇用人員判断D.I.＜「過剰」－「不足」＞：▲35）。

雇用者所得（名目ベース）は、着実に増加している。

４．物価

消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）の前年比は、足もとでは1%程度となっている。

５．企業倒産

企業倒産は、件数、負債総額ともに前年を下回っている（26/10月：倒産件数1件＜前年3件＞、負債総額71百万円＜同394百万円＞）。

[1] 県内の百貨店、ショッピングセンター、スーパー等。

６．金融

実質預金（銀行、信金、信組）は、前年を下回っている。

貸出（同）は、前年を上回っている。

貸出約定平均金利（銀行、信金）は、緩やかに上昇している。

以　上

【本文中の使用計数等の出所】

・ 主要観光施設への入込客数：高知県「月別観光施設利用実績」、消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）：総務省「消費者物価指数」、企業倒産：東京商工リサーチ「高知県企業倒産状況」。

・ その他の項目は、日本銀行高知支店が個別に収集したもの。

・ なお、利用統計は公表月によって異なる。